

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地												
麻生建築&デザイン専門学校	平成9年11月26日	竹口 伸一郎	〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南1-11-13 (電話) 092-415-2292												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地												
学校法人 麻生塾	昭和26年3月12日	麻生 健	〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町 3-83 (電話) 0948-25-5999												
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士										
工業	工業専門課程	建築工学科		平成25年文部科学省告示第3号	—										
学科の目的	卒業後、1級建築士、2級建築士を目指し、住宅・店舗・オフィス・ホテル・公共施設などの各種建築物の計画、設計、法規、構造、インテリア及び施工のプロセスなどの専門知識を学び、さらにCADなどパソコン活用技術を体得することを主な目的とする。														
認定年月日	平成26年3月31日														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技								
3年	昼間	2,460	1,200	1,920	-	-	-								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数										
360人	314人	7人	9人	18人	27人										
学期制度	■前期: 4月1日～8月31日 ■後期: 9月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 5段階評価、3分の2以上の出席が必要											
長期休み	■夏季: 8月10日～9月7日 ■冬季: 12月25日～1月4日 ■春季: 3月8日～4月5日		卒業・進級条件	単位を取得していること 卒業基準検定を取得している 学年の出席率が90%以上 学生としてふさわしい生活態度											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 各種検定対策補講(希望者)、数学ゼミ(希望者)、BIMゼミ(希望者)		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動											
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 建設業		主な学修成果(資格・検定等)※3	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)											
	■就職指導内容 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級建築士受験資格</td> <td>②</td> <td>55人</td> <td>55人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級建築士受験資格	②	55人	55人
	資格・検定名	種別		受験者数	合格者数										
	2級建築士受験資格	②		55人	55人										
■卒業生数 55人 ■就職希望者数 26人 ■就職者数 26人 ■就職率 : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 47.3% ■その他 ・進学者数: 26人 ・就職希望せず3人		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)													
(令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)		■自由記述欄 令和2年度 福岡県建築士事務所協会主催 建築設計競技 福岡県教育委員会賞、建築住宅センター理事長賞、福岡県建築士会会長賞、優秀賞、佳作、団体賞													
中途退学の現状	■中途退学者 8名 令和2年5月1日時点において、在学者273名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者265名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、健康問題など		■中退率 3%												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 ・東日本大震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無														
当該学科のホームページURL	<a href="https://asojuku.ac.jp/aadc/archie/">https://asojuku.ac.jp/aadc/archie/</a>														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

また、広く建築業界の動向や求められる知識レベルを把握するためお客様アンケートを実施し、現場の求めるニーズを確実に捉え、本校の授業内容やカリキュラムに反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては、教育課程委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
及川 雅史	株式会社 テクノプロ・コンストラクション 労政課 課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
和田 義一	株式会社 大設計 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
高崎 強	株式会社 久米設計 九州支社 支社長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
太田 昌宏	愛知産業大学 教授	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	②
今泉 清太	麻生建築&デザイン専門学校 校長代行	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
黒木 文雄	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
古賀 俊光	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
集路 正巳	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
山口 勇二	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
津嘉山 佳子	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
西尾 英士	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
徳田 美穂子	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
峯元 幹雄	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
森行 美枝	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
山内 由美	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
田川 裕也	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期) 年2回、開催時期は7月、12月

(開催日時)

令和2年度 第1回 令和2年 7月31日 15:30~17:00  
令和2年度 第2回 令和2年 12月4日 15:30~17:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

コロナ禍にありオンライン授業に関する話題・意見が中心となった。また、建築士製図試験対策の指導についてその効果や指導側の負担も考慮し、学生10~15人に1名の教員があたれるような体制について意見があった。今年度試験はすでに終了しているため、次年度の対策授業に対応が講じられるように、製図対策科目のカリキュラムの指導要領の内訳について見直しを行い、まずは試験的に建築士専攻科で実施し効果を検証するよう計画した。

オンライン授業やテレワークなど、見えないところでも努力する力についても言及があり、学習機会のなかで一人では上げにくいモチベーションにも対応できる取り組みを求められた。これに対し、オンラインでもグループワーク・グループ設計を設け、対面での授業と同様に学生間相互の関係構築を基礎とした設計課題への取り組みを行った。

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等とのヒアリングに基づき、将来技術者として活躍するために、基本的な図学力や知識を取得し、実務適応能力やプレゼンテーション能力を高め、更に手描き演習を通して必要な創造力や発想力を養っていくことを目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

建築図学において、立体・空間の作図の演習を通して空間把握能力を養う。

企業実務担当者による実務案件をモデルケースとし、活用頻度の多い場面を想定した課題選定の提案や指示・助言による課題設定を行う。また、習得スキルの各段階(基礎/応用)を設定し、パース作図の描画手法の学習段階を設計・評価していただいている。

企業担当者が業務の要点をまとめたもの(オリジナルテキスト)を教材とし、「建築図学Ⅰ、Ⅱ」を行う。授業課題の評価は企業担当者を中心とし、本校教員も含めて、総合的に行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
建築図学Ⅰ	テキストを熟読し、建築を表現する手法を表現する。手法について知識を広く得る。	石原パースデザイン
建築図学Ⅱ	自分の意図した空間・形態を的確に表現する。手法を実際の建築物を参照しながら習得する。	石原パースデザイン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「教職員研修規程」に基づき計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

教職員に対し、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

## (2) 研修等の実績

### ①専攻分野における実務に関する研修等

- ・研修名「2020年版建築物の構造関係技術基準解説書」  
(一般財団法人建築行政情報センター、一般財団法人日本建築防災協会)

期間: 令和2年11月8日、対象(参加者): 専任教員1名

内容: 構造関係規定の制定・改訂等とその解説、建築物の構造関係技術基準解説書の改訂内容を中心解説する講習会

### ②指導力の修得・向上のための研修等

- ・研修名「インストラクショナルデザイン入門」(連携企業等: 株式会社ウイネットe-manabi事務局)

期間: 令和2年4月24日、対象(参加者): 専任教員

内容: 授業の効果・効率・魅力を高めるための方法論、授業を計画、実施していくうえでの参考

## (3) 研修等の計画

### ①専攻分野における実務に関する研修等

- ・研修名「住宅設計課題のこれまでとこれから — 住宅設計を学ぶ意味を改めて考える —」  
(一般社団法人 東京建築士会)

期間: 令和3年6月4日、対象(参加者): 専任教員

内容: 住宅に関するさまざまな課題が存在する現在、改めて住宅の設計を学ぶことの価値と方法についての研修

### ②指導力の修得・向上のための研修等

- ・研修名「コーチング実践 フォロー研修」(連携企業等: 組織デザイン・ラボ)

期間: 令和3年8月25日、令和4年2月16日、対象(参加者): 専任教員

内容: ケーススタディ、グループワーク

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

## (1) 学校関係者評価の基本方針

実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換を通じて、自己評価の結果を評価しHP等を通して公表する。また、学校関係者評価委員会は、本校の関係者として、保護者・卒業生・地域住民・企業関係者・高等学校関係者・教育に関する有識者で構成する。

## (2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学習成果の品質追求として、学生数増加に伴う対応や教育環境の整備を適切に維持することが意見としてあがった。多様化する学生の個性や、学修の効果的な指導法や指導環境についても研究の継続が必要である。学科定員の見直しを行い、教室等の環境整備をあらためて実施した。また、製図対策指導などにおいてもより目が行き届くように教員一人あたりの担当学生人数を再検討していく計画を作成し、意見をきっかけに教室などのハード面、指導方法の運用面における再確認の検討を進めることができた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
高木 秀樹	株式会社 住まいえ 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業関係者
中野 貴嗣	株式会社 九州三田技術コンサルタンツ 設計関連センター センター長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業関係者
高崎 強	株式会社 久米設計 九州支社 支社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業関係者
和田 義一	株式会社 大設計 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業関係者
及川 雅史	株式会社 テクノプロ・コンストラクション 労政課 課長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業関係者
松田 淳司	ゼネラルアサヒ コミュニケーションデザイン本部 企画デザイン部 部長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業関係者
板橋 正志	株式会社 ダイキエンジニアリング 取締役 人事本部長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業関係者
市川 仁士	福岡県立 福岡工業高等学校 校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者
井上 勝義	クリエイティブ・ルーム ERNEST 代表	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	有識者
元木 昭平	ウームデザインオフィス 代表	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	有識者
太田 昌宏	愛知産業大学 教授	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	有識者
小林 芳光	博多区博多駅南第4区自治会 民生委員	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	地域住民
大塚 剛幸	建築工学科 在校生 保護者	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	保護者
矢野 翔太郎	令和2年度 建築工学科 卒業生	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aadc/2020/hyoka.pdf>

公表時期: 令和2年10月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等との連携及び協力により、実践的な職業教育の質の向上を推進するため、教育活動及び学校運営の状況について情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念、歴史、教育目標、ASOの考え方
(2)各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格・検定、就職情報
(3)教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学園祭・部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6)学生の生活支援	生活環境サポート、学生寮、就職サポート、留学生サポート
(7)学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、終始計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他(学生便覧)

URL: <https://asojuku.ac.jp>、<https://asojuku.ac.jp/aadc>

授業科目等の概要

(工業専門課程 建築工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			建築設計製図Ⅰ	設計製図の基本の習得する（線・文字の基本的な描き方と建具等の表示記号の理解） 木造建物、鉄筋コンクリート造の製図法を習得する。	1前	90	6			○	○		○		
○			建築設計製図Ⅱ	小規模住宅設計を課題として建築計画と設計製図の基礎を習得する。	1後	90	6			○	○		○	○	
○			建築設計製図Ⅲ	店舗併用住宅を設計することで、企画・計画・設計の段階、建築物が完成するまでの過程を学習する。	2前	90	6			○	○		○	○	
○			建築設計製図Ⅳ	特殊建築物（共同住宅など）を課題として、実際の敷地を見学し事例収集などを含めた調査から地域に相応しい建築計画・建築設計のプロセスを学ぶ。	2後	90	6			○	○		○		
○			建築計画Ⅰ	主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			建築計画Ⅱ	公共建築のうち教育施設（幼稚園、小中学校等）や外部空間、自然環境と建築の関係等を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			建築計画Ⅲ	建築として主に公共建築について学ぶ。特に図書館、美術館、コミュニティセンター等の社会教育施設や少子高齢化社会に向けて医療施設、福祉施設について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○			建築計画Ⅳ	建築として主に商業施設の計画について学ぶ。特に事務所ビル、劇場・音楽ホール、百貨店・スーパーマーケット、駐車場等について学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
○			建築計画Ⅴ	主に都市デザイン、まちづくり、都市計画制度、都市・都市計画史について学ぶ。	3前	30	2	○			○			○	
○			建築環境工学	建築環境工学の基礎的な知識として、熱、光、空気、音の分野について学習し、知識の習得を行う。	2後	30	2	○			○			○	

(工業専門課程 建築工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			建築設備	各種建物の特長と建築設備の関わり、空気調和、給排水、衛生、電気等の各種建築設備における基本的な事項と考え方について解説する。	2後	30	2	○			○		○		
○			建築構造力学Ⅰ	「建築力学の基礎概念である力・力のモーメント」「力のつり合いなどの静力学の基礎」「静定構造物の反力・応力の求め方」「トラス構造の解析方法」について学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
○			建築構造力学Ⅱ	「静定構造物の応力の求め方」「トラス構造の解析方法」について学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
○			建築構造力学Ⅲ	不静定構造を対象として、応力度・ひずみ度の算定、材料の性質、許容応力度設計の考え方、断面の性質などについて学び、不静定梁のたわみと断面力算定、たわみ角法および固定法による不静定骨組の断面力算定法などについて学ぶ。	3前	30	2	○			○			○	
○			建築一般構造Ⅰ	木造建築物の構造を理解し、必要な部材名及びその役割を理解し基礎知識を身につける。	1前	30	2	○			○			○	
○			建築一般構造Ⅱ	鉄筋コンクリート構造の基本的な構造を理解し、その構造形式の特徴について学ぶ。鉄骨構造の構造形式などの特徴や部材の設計方法について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			建築材料Ⅰ	建築材料のうち、構造材料である木材、コンクリート材料の性質について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			建築材料Ⅱ	建築材料のうち、構造材料であるコンクリート材料、金属材料（鋼材）の性質について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○			建築施工Ⅰ	請負契約から工事計画・工事管理まで学習する。また、各種工事についての知識を習得する。	1後	30	2	○			○			○	
○			建築施工Ⅱ	鉄骨造、各種仕上げ工事などに関する要点を習得する。	2後	30	2	○			○			○	



(工業専門課程 建築工学科) 令和3年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			建築施工Ⅲ	建築物の設計図面や仕様書等の設計図書をもとに建築物の各部材の材料とその数量を求める。各材料の単価を把握し建築物の建築工事費の算出方法を学ぶ。	3前	30	2	○			○			○		
○			建築法規Ⅰ	基本となる建築基準法を中心に学習し、建築物の設計等を行う際の最低の基準を学ぶ。	1前	30	2	○			○				○	
○			建築法規Ⅱ	基本となる建築基準法を中心に学習し、建築物の設計等を行う際の最低の基準を学ぶ。	1後	30	2	○			○					○
○			建築法規Ⅲ	基本となる建築基準法を中心に学習し、建築物の設計等を行う際の最低の基準を学ぶ。	2前	30	2	○			○					○
○			トータルコミュニケーションⅠ	学校やクラスメートとの懇親や、協調性を引き出すため、各種クラス行事を実施。	1前	15	1	○			○				○	
○			トータルコミュニケーションⅡ	自己表現やプレゼンテーション技法を学ぶ。コミュニケーション技法やプレゼンテーション技法について学ぶ。	1後	15	1	○			○				○	
○			ビジネスマナーⅠ	ビジネスに必要な基本的な知識の習得を目指す。(立ち居振る舞い・敬語・ビジネス文書)	1前	30	2	○			○				○	
○			ビジネスマナーⅡ	ビジネスに必要な基本的な知識の習得を目指す。(交際業務・来客対応・電話対応)	1後	30	2	○			○				○	
○			JWCADⅠ	建築設計について基本的な考え方について学ぶ。Jw-CADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得。	1前	60	4	○			○				○	○
○			JWCADⅡ	JWCADⅠの基礎的な知識をベースに木造住宅の設計演習を実施し、建築CAD検定2級合格を目指す。	1後	60	4	○			○				○	○
○			AutoCADⅠ	AutoCADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得。	2前	60	4	○			○				○	○
○			AutoCADⅡ	前期のAutoCADの基本操作から応用操マスターし、RC造など、大型建築物を短時間で作図できる能力を養う。	2後	60	4	○			○				○	

## (工業専門課程 建築工学科) 令和3年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			3DCAD I	建築設計や建築生産に必要な3次元図面の作成技術を通して、多角的な設計技術などを学ぶ。	2後	60	4		○		○			○	
○			3DCAD II	建築設計や建築生産に必要な3次元図面の作成技術を通して、多角的な設計技術などを学ぶ。	3前	60	4		○		○			○	
○			建築図学 I	テキストを熟読し、建築を表現する手法を表現する。手法について知識を広く得る。	1前	30	2		○		○		○	○	○
○			建築図学 II	自分の意図した空間・形態を的確に表現する。手法を実際の建築物を参照しながら習得する。	1後	30	2		○		○		○	○	○
○			造形学 I	建築の構成要素を考えながら、模型等の製作等において美しい形態を造形する。	1前	30	2		○		○		○		
○			造形学 II	建築の構成要素を考えながら、模型等の製作等において美しい形態を造形する。	1後	30	2		○		○		○		
○			造形学 III	建物模型や3DCADを使用し、完成度の高いプレゼンモデルを制作する。	2前	30	2		○		○		○	○	
○			造形学 IV	前期で学んだ知識を、卒業研究発表での表現力をアップさせるため、造形物の撮影やプレゼン力を養成する。	2後	30	2		○		○		○		
○			福祉住環境	高齢化社会に対応できる福祉住環境コーディネーターの知識と習得。	1前	30	2	○			○		○		
○			インテリア コーディネーション	住宅内装計画の設計・プレゼンテーション技法を学ぶ。	2前	30	2	△	○		○		○		
○			Photoshop・ Illustrator I	IllustratorとPhotoshopの基本操作を習得し Photoshop、Illustratorを使用して作品を製作する。	2前	30	2		○		○			○	
○			Photoshop・ Illustrator II	IllustratorとPhotoshopの応用操作を習得し Photoshop、Illustratorを使用して作品を製作する。	2後	30	2		○		○		○	○	

(工業専門課程 建築工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Photoshop・Illustrator III	IllustratorとPhotoshopの応用操作を習得し Photoshop、Illustratorを使用して作品を製作する。	3前	30	2	○			○		○	○	
○			Photoshop・Illustrator IV	IllustratorとPhotoshopの応用操作を習得し Photoshop、Illustratorを使用して作品を製作する。	3後	30	2	○			○			○	
○			建築士対策(計画)	二級建築士の学科試験の学科Ⅰ(計画)を学ぶ。	3後	30	2	○			○			○	
○			建築士対策(法規)	二級建築士の学科試験の学科Ⅱ(法規)を学ぶ。	3後	30	2	○			○			○	
○			建築士対策(構造)	二級建築士の学科試験の学科Ⅲ(構造)を学ぶ。	3後	30	2	○			○			○	
○			建築士対策(施工)	二級建築士の学科試験の学科Ⅳ(施工)を学ぶ。	3後	30	2	○			○			○	
○			建築士対策Ⅰ(製図)	二級建築士の設計製図課題レベルのエスキース・製図能力の習得	3前	60	4	○			○			○	
○			建築士対策Ⅱ(製図)	二級建築士の設計製図課題レベルのエスキース・製図能力の習得	3後	60	4	○			○			○	
	○		専攻ゼミ(住宅)Ⅰ(必修選択)※A	設計コース(住宅空間)ゼミ形式授業実施。前期は、作品制作するための調査を中心として活動する。	3前	90	6	△	○		○			○	○
	○		専攻ゼミ(都市)Ⅰ(必修選択)※A	設計コース(都市空間)ゼミ形式授業実施。前期は、作品制作するための調査を中心として活動する。	3前	90	6	△	○		○			○	○
	○		専攻ゼミ(施工)Ⅰ(必修選択)※A	施工管理コースでゼミ形式授業実施。前期は、測量、木造模型、コンクリート強度試験等実施。	3前	90	6	△	○		○			○	○
	○		専攻ゼミ(住宅)Ⅱ(必修選択)※B	前期 設計コース(住宅空間)の授業を踏まえて、卒業制作の作品を完成させ、更にプレゼン能力を養う。	3後	90	6	△	○		○			○	○

(工業専門課程 建築工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		専攻ゼミ(都市)Ⅱ(必修選択)※B	前期 設計コース(都市空間)の授業を踏まえて、卒業制作の作品を完成させ、更にプレゼン能力を養う。	3後	90	6	△	○		○		○	○	
	○		専攻ゼミ(施工)Ⅱ(必修選択)※B	前期、施工管理コースの授業を踏まえ、グループで大型構造模型を完成させ、更にプレゼン能力を養う。	3後	90	6	△	○		○			○	
○			卒業制作Ⅰ	本校における学びの集大成としてその成果をまとめる。	3前	60	4	△	○		○			○	
○			卒業制作Ⅱ	本校における学びの集大成としてその成果をまとめる。	3後	60	4	△	○		○			○	
○			GCBⅠ	グローバルシティズンの育成をめざし、感謝心と思いやりをもった人材を養成する。	1前	15	1	○			○			○	
○			GCBⅡ	グローバルシティズンの育成をめざし、ビジョンと志をもった人材を養成する。	1後	15	1	○			○			○	
○			就職実務ⅠA	就職をするということ、さまざまな雇用形態と働き方、求められる人材像を考えたしながら仕事について、働くことについて考えていく。	2前	30	2	○			○			○	
○			就職実務ⅠB	具体的な企業紹介と、希望職種の説明。更にそこで内定が取れるよう、麻生オリジナル教材にて指導。履歴書等より具体的なスキルを身につけさせる。	2後	30	2	○			○			○	
○			就職実務ⅡA	各学生の就職活動の支援。履歴書の書き方や面接の受け方等を、個別にサポートします。	3前	30	2	○			○			○	
○			就職実務ⅡB	入社した後に困らないよう、社会人としての教育を、クラス行事も含め実施。	3後	30	2	○			○			○	
		○	キャリア教育Ⅰ(選択)	自分のキャリア像について考える。	2後	30	2	○			○	○		○	

(工業専門課程 建築工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	検定対策ゼミ A (選択)	各種検定対策授業の実施。	2前	60	4	○			○		○		
		○	検定対策ゼミ B (選択)	各種検定対策授業の実施。 前期で受講した検定ゼミを継続して受講する。(選択)	2後	30	2	○			○		○		
		○	数学ゼミ I A (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるように四則演算及び分数計算・小数の計算を振り返りを行う。	1前	15	1	○			○			○	
		○	数学ゼミ I B (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるようにSI単位の理解を行い、単位の計算ができるよう学習する。	1後	15	1	○			○			○	
		○	数学ゼミ II A (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるように四則演算及び分数計算・小数の計算を振り返りを行う。	2前	15	1	○			○			○	
		○	数学ゼミ II B (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるようにSI単位の理解を行い、単位の計算ができるよう学習する。	2後	15	1	○			○			○	
		○	数学ゼミ III A (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるように四則演算及び分数計算・小数の計算を振り返りを行う。	3前	15	1	○			○			○	
		○	数学ゼミ III B (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるようにSI単位の理解を行い、単位の計算ができるよう学習する。	3後	15	1	○			○			○	
		○	BIM専攻 I A (選択)	ビルディングインフォメーションモデリング(BIM)についての理解と関係ソフトの基礎的知識及び操作技術の向上。	1前	15	1		○		○			○	
		○	BIM専攻 I B (選択)	BIM手法を駆使し、作品制作や競技設計へ挑戦することで、技術の向上を図る。	1後	15	1		○		○			○	
		○	BIM専攻 II A (選択)	BIMについての理解と関係ソフトの基礎的知識及び操作技術の向上。	2前	15	1		○		○			○	
		○	BIM専攻 II B (選択)	BIM手法を駆使し、作品制作や競技設計へ挑戦することで、技術の向上を図る。	2後	15	1		○		○			○	

(工業専門課程 建築工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	BIM専攻ⅢA (選択)	B I Mについての理解と関係ソフトの基礎的知識及び操作技術の向上。	3前	15	1		○		○		○	○	
		○	BIM専攻ⅢB (選択)	B I M手法を駆使し、作品制作や競技設計へ挑戦することで、技術の向上を図る。	3後	15	1		○		○		○	○	
合計			81科目		3120単位時間(208単位)										

・必修選択科目(※A、※B)はそれぞれ1科目選択

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
①最終学年の終了時において、履修すべき全授業科目(実習を含む)に合格し、当該学年における単位数を取得していること。②出席率が当該学年の出席時間数の90%以上であること。 ③国土交通省が定めた規定の時間を満たした者。④学生としてふさわしい生活態度であること。 上記基準を満たせない者は、他の成績科目、出席状況などを参考に卒業判定会議により判定する。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週